



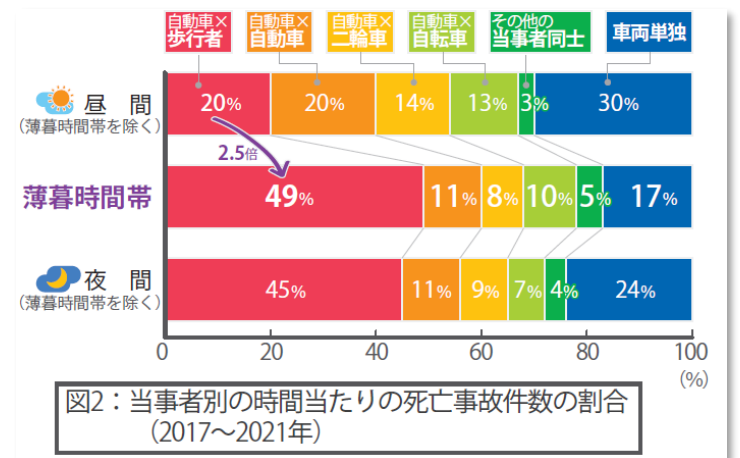
(有)リスクナインの

安全運転ニュース

夕暮れ時に「まだ明るい」と感じていても、周囲は徐々に薄暗くなり視界が悪くなります。そのような時間帯を運転中に歩行者が道路を横断しようと自車の前に出てきたら、あなたは事故を回避できますか？
 今月は薄暮時間帯に安全走行するためにはどうしたらよいのかをみてみましょう。

薄暮時間帯は、ドライバーも歩行者も互いの存在に気付くのが遅れ事故が起きる

■薄暮時間帯の死亡事故（時間あたり）を当事者別にみると、「自動車対歩行者」が49%を占め、昼間と比べ約2.5倍も多くなります。（右図）
 薄暮時間帯は、周囲の視界が徐々に悪くなるためドライバーも歩行者も互いの存在に気付くのが遅れたり、距離や速度がわかりにくくなったりするため、歩行者との重大事故を起こす危険性が高まります。

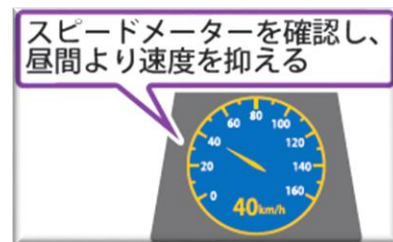


薄暮時間帯の安全走行とは

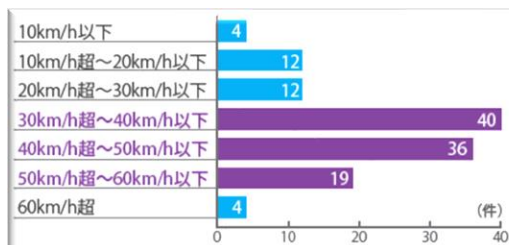
■それでは、薄暮時間帯に、いち早く危険に気づき、安全に走行するためには、どうすればよいかをみてみましょう。



10月になると16時ごろに薄暗くなり始めます。「まだ明るい」と感じていても視界は徐々に悪くなっています。視界を十分確保するために、ヘッドライトはハイビームにして走行し、先行車や対向車がいる場合にはロービームに切り替えましょう。



周囲が暗くなり、視界を流れる景色がほとんど感じられなくなると、実際の速さより遅く感じてしまう傾向があります。時々スピードメーターで確認し、昼間より速度を抑えましょう。



出典：政府広報オンライン 2021年9月「夕暮れ時に歩行者が死亡する交通事故が多発！この時間帯の交通事故を防ぐには？」（資料：警察庁）より弊社作成
 ※「危険認知速度」とは、運転者が相手方を認め、危険を認知した時点の速度。運転者が危険を認知せずに事故に至った場合は、事故直前の速度をいいます。



薄暮時に起きた歩行者の死亡事故件数を自動車の速度別にみると時速30～60kmが多くなります。横断歩道手前で自動車が十分に減速していないことが見て取れます。この先に横断歩道があることを示す標識や表示が現れたらいつでも止まれるようにしましょう。

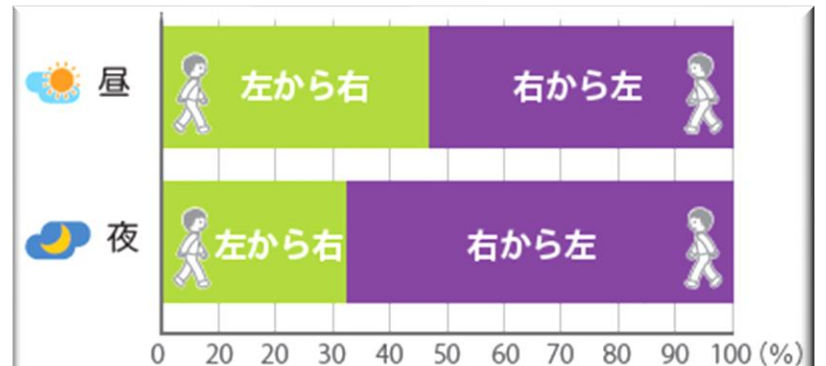


図7：自動車直進時と歩行者横断中の死亡事故における昼夜別の歩行者の横断方向 (2009年中)

夜間は道路の右側から横断してきた歩行者との死亡事故が多くなります。薄暮時から夜間は常に「道路の右側から横断する歩行者がいるかもしれない」と考えて注意を怠らないようにしましょう。